2022（令和4）年度

動物実験に関する自己点検・評価報告書

石川県立大学

作成年月：令和6年3月

Ⅰ．規程及び体制等の整備状況

１．機関内規程

１）評価結果 ■　基本指針に適合する機関内規程を定めている。 □　機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。 □　機関内規程を定めていない。
２）自己点検の対象とした資料 **石川県立大学動物実験取扱規程**
３）評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） **環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」（以下「飼養保管基準」という。）と文部科学省の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」（以下「基本指針」という。）を踏まえ、石川県立大学動物実験取扱規程が定められている。なお、2022 年度に実施された外部検証において、「必要に応じて細則や内規を整備されることが望ましい」との提言を受けている。**
４）改善の方針、達成予定時期 **提言に基づき細則整備の要否を検討したが、現行の規程および運用体制で十分な対応が可能と判断した。当面は現行規程のもとで適正な運用を継続し、必要に応じて将来的な見直しを図る方針とする。**

２．動物実験委員会

１）評価結果 ■　基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。 □　動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。 □　動物実験委員会を設置していない。
２）自己点検の対象とした資料 **石川県立大学動物実験取扱規程**
３）評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） **飼養保管基準及び基本指針に適合した動物実験委員会が置かれている。**
４）改善の方針、達成予定時期 **特になし。**

３．動物実験の実施体制

１）評価結果 □　基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。 ■　動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。

□　動物実験の実施体制を定めていない。
2）自己点検の対象とした資料 **石川県立大学動物実験取扱規程、動物実験計画書様式、動物実験計画（変更・追加）届様式、動物実験結果報告書様式、動物実験の自己点検票様式、実験動物飼養保管状況の自己点検票様式飼養保管施設設置承認申請書様式、実験室設置承認申請書様式、施設等（飼養保管施設・動物実験室）廃止届様式**
3）評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） **動物実験の実施に必要な動物実験規程等及び各種申請書様式等が適正に整備されている。一方、2022 年度に実施された外部検証において、『動物実験計画書における人道的エンドポイントの具体的な内容の記載』および『安楽死方法への「その他」の項目追加』についての検討の提言を受けている。**
4）改善の方針、達成予定時期 **指摘事項の反映に向け、様式の改定を予定している。規程や関連運用との整合性を図るとともに、学内での審議および十分な周知期間を設けるため、数年程度をかけて段階的に検討・改定を進めていく。**

4．安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

1）評価結果 ■　基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めている。 □　安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 □　安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めていない。 □　該当する動物実験を行っていないので、実施体制を定めていない。
2）自己点検の対象とした資料 **石川県立大学動物実験取扱規程** **緊急時の対応マニュアル（動物実験委員会）** **石川県立大学遺伝子組換え実験等安全管理規程**
3）評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） **安全管理に注意を要する動物実験の実施に関連する様式や手続きを整備している。**
4）改善の方針、達成予定時期 **特になし。**

5．実験動物の飼養保管の体制

1）評価結果 □　基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。 ■　概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □　多くの改善すべき問題がある。
2）自己点検の対象とした資料

石川県立大学動物実験取扱規程、飼養保管施設設置承認申請書様式、実験室設置承認申請書様式、施設等（飼養保管施設・動物実験室）廃止届様式、動物実験講習会資料、標準作業手順書
３）評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 飼養保管施設等の設置と廃止に関する要件が規程に定められており、確認に必要な各種様式も適正に整備されている。なお、2022 年度に実施された外部検証において、「飼養保管施設の設置申請においては、各施設の標秦作業手順書を審査対象とすること等により、施設の具体的な管理体制や作業手順、施設外の実験室への持ち出しについての周知が適正に行われるよう、飼養保管の体制を速やかに整備されたい。」との提言を受けている。
４）改善の方針、達成予定時期 提言を踏まえ、管理体制の速やかな整備を図った。マウスの納入記録簿を作成し、タイムカード導入により入退室管理を強化するとともに、各施設の標準作業手順書（SOP）の見直しと改善に着手した。SOP の整備・定着には数年間の計画的な取組を要するため、当面はタイムカード運用と既存の解説書等を活用しつつ、順次 SOP の策定・運用を進めていく。

６．その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

Ⅱ．実施状況

１．動物実験委員会の活動状況

１）評価結果 □　基本指針に適合し、適正に機能している。 ■　概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □　多くの改善すべき問題がある。
２）自己点検の対象とした資料 石川県立大学動物実験取扱規程、学内決裁文書「動物実験計画書の承認について」、議事録
３）評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 石川県立大学動物実験取扱規程等に基づいて、学長の諮問機関として委員会を開催し（メール会議等）、関連事項に関して審議を行っている。2022 年度に実施された外部検証においては、「動物実験計画や飼養保管施設設置承認申請の審査方法や審査項目を、より明確にすることを検討されたい。また、委員間の情報共有や共通認識をさらに進め、教育訓練や施設の視察等にも委員会として関与すること」の推奨を受けている。
４）改善の方針、達成予定時期 推奨事項に対し委員会内で精査を行った。現行体制において丁寧な事前審査および個別の状況把握が行き届いていることから、審査項目の見直し等は現行運用を維持することとした。 なお、委員間の情報共有および資質向上を図る対応として、実験動物管理者の教育訓練受講者の拡充（通常1名、数年に1回は2名）できるよう予算要求を進めていく。予算確保に向け段階的な対応を図りつつ、適切な委員会関与と教育訓練の充実を図っていく。

２．動物実験の実施状況

１）評価結果 ■　基本指針に適合し、適正に動物実験を実施している。 □　概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □　多くの改善すべき問題がある。
２）自己点検の対象とした資料 学内決裁文書「動物実験計画書の承認について」、動物実験結果報告書、議事録、 動物実験の自己点検票
３）評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 動物実験計画書を審査し、学長の承認を得ると共に、動物実験結果報告書と動物実験自己点検票により動物実験の実施状況を把握した。
４）改善の方針、達成予定時期 特になし。

３．安全管理に注意を要する動物実験の実施状況

１）評価結果 ■　基本指針に適合し、当該実験を適正に実施している。 □　概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □　多くの改善すべき問題がある。 □　該当する動物実験を行っていない。
２）自己点検の対象とした資料 小動物室：環境マネジメント報告書、微生物検査成績表、遺伝子組換え動物実験一覧表
３）評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 小動物室：法令に適合したP1A動物施設であることを確認した。また、該当する実験について、事故等の報告はなかった。
４）改善の方針、達成予定時期 特になし。

４．実験動物の飼養保管状況

１）評価結果 □　基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 ■　概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □　多くの改善すべき問題がある。
２）自己点検の対象とした資料 動物実験施設飼養保管マニュアル（動物実験講習会資料等）、微生物検査成績表、令和4年度実験動物飼養保管状況の自己点検票、令和4年度動物実験の自己点検票、緊急対応マニュアル
３）評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 実験動物は適正に飼養保管されていた。一方、2022 年度に実施された外部検証において、「教育訓練資料にも記載された全般的な注意事項に従った標準業務手順書を施設ごとに作成し、記録を適正に作成・保管することで、実験動物の飼養保管状況を的確に判断できるように改善されたい。また、遺伝子組換えマウスは自家繁殖されているため、微生物モニタリングの実施を検討されたい。」との提言を受けている。
４）改善の方針、達成予定時期 提言を踏まえ、管理体制の速やかな整備を図った。マウスの納入記録簿を作成し、タイムカード導入により入退室管理を強化するとともに、各施設の標準作業手順書（SOP）の作成に着手した。SOP の整備・定着には数年間の計画的な取組を要するため、当面はタイムカード運用と既存の解説書等を活用しつつ、順次 SOP の策定・運用を進めていく。微生物モニタリング導入に関して、予算調整および手法の検討に着手したが、定期検査の実施には予算確保の調整（数年程度）を要するため、それまでの期間は飼養環境の適切な滅菌・衛生管理および日常の個別観察を徹底し、清浄度の維持に努めることとする。

５．施設等の維持管理の状況

１）評価結果 □　基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に維持管理している。 ■　概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □　多くの改善すべき問題がある。
２）自己点検の対象とした資料 飼養保管施設設置承認申請書、飼養保管施設一覧、令和4年度実験動物飼養保管状況の自己点検票、小動物室：環境マネジメント報告書
３）評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 施設の設置承認時に動物実験規程が求める設置基準を満たしていることを委員会が確認しており、実験動物飼養保管状況の自己点検票の提出によって、概ね適正に維持管理されている事を把握している。一方、2022 年度に実施された外部検証において、「飼育室の環境条件や施設の維持管理状況を正確に把握するために、温湿度や入退室の記録、委員会視察等の記録を保管することが望ましい。」との提言を受けている。
４）改善の方針、達成予定時期 提言を踏まえ、管理記録の適正化を推進した。入退室管理としてタイムカードを導入し、確実な記録管理を開始した。 温湿度等の各種確認については、施設利用時の日々のチェックにより適切な環境把握を行っている。当面は日常点検の継続により適正管理を維持し、記録保管の具体的な方法について引き続き検討を行うこととする。

６．教育訓練の実施状況

１）評価結果 □　基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 ■　概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □　多くの改善すべき問題がある。
２）自己点検の対象とした資料 教育訓練受講者名簿、令和4年度動物実験教育訓練実施記録（受講者数、実施時期、教育概要）、動物実験講習会資料、公私立大学実験動物施設協議会実験動物管理者教育訓練修了証
３）評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 教育訓練の実施記録等によって基本指針に則した教育訓練が実施されていることを確認した。また、実験動物管理者は日本実験動物学会の実験動物管理者等研修会を受講し専門情報を修得した。 一方、2022 年度に実施された外部検証において、「動物取り扱いの内容、飼養保管基準の説明、人獣共通感染症及び家畜伝染病(ヒツジ)などの内容についてやや不足しており、今後内容を充実させることが望ましい。」と提言を受けている。
４）改善の方針、達成予定時期 提言を踏まえ、教育訓練内容の拡充に向けた情報収集および講習資料の作成に着手している。専門性

の高い項目（感染症・家畜伝染病等）について十分な情報を精査するため数年程度の検討期間を設け、計画的に教材の完成と講習内容の更新を進めていく。

７．自己点検・評価、情報公開

１）評価結果 ■　基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 □　概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □　多くの改善すべき問題がある。
２）自己点検の対象とした資料 石川県立大学動物実験に関する自己点検・評価報告書、「石川県立大学における動物実験に関する情報」のホームページ（https://www.ishikawa-pu.ac.jp/feature/research_ethics/animal_experimentation/）
３）評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 大学ホームページに学内規程をはじめとして、石川県立大学における動物実験に関する情報を公開している。
４）改善の方針、達成予定時期 特になし。

８．その他

（動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果）